JA ZENKOUREN INFORMATION 2024.9 vol.1143

JA全厚連情報

第45回農協人文化賞を受賞された鹿児島厚生病院名誉院長　窪薗氏（上）
第45回農協人文化賞表彰式のようす（下）

JA全厚連

目　次

□ 災害医療のシンポジウム等を開催
第 20 回全国厚生連病院長会研修会を開催　1

□ 第 45 回農協人文化賞表彰式が開催
鹿児島厚生連病院・窪薗氏が厚生事業部門で受賞　3

・通信員だより

秋田県農村医学会第 126 回学術大会　学術研究を通して地域医療・保健・福祉を考える
～一般財団法人秋田県農村医学会～（ＪＡ秋田厚生連）　5

未来の看護師誕生に 一日看護体験開催（ＪＡ茨城県厚生連）　7

第 82 回関東農村医学会学術総会（相模原協同病院）　8

院内防災訓練を実施しました（伊勢原協同病院）　9

2024 年度 介護福祉士第１回テクノエイド研修会を開催しました（ＪＡ長野厚生連）　10

夏の院内コンサートを開催しました（中濃厚生病院）　11

サマーコンサート６年ぶりに開催！（ＪＡ静岡厚生連遠州病院）　12

浜松厚生看護専門学校　竣工式（ＪＡ静岡厚生連浜松厚生看護専門学校）　13

活発な学会活動再開の端緒を期待「第 40 回四国農村医学会総会開催」（ＪＡ愛媛厚生連）　14

©よい食プロジクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000　FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
（事業運営支援グループ）
https://www.ja-zenkouren.or.jp
編集責任者　歸山　好尚
ＪＡ厚生連

災害医療のシンポジウム等を開催

第20回全国厚生連病院長会研修会を開催

1　全国の厚生連病院で組織する全国厚生連病院長会は８月３日、第30回全国厚生連病院長会研修会を東京・御茶ノ水の東京ガーデンパレスにおいて開催し、20厚生連から40名の病院長等が参加した。

当日は、「公的医療機関としての厚生連病院の制約と課題」（前田俊範・全国厚生農業協同組合連合会参事）の講演、その後のシンポジウムで「２０２４能登半島地震の報告」（柴田和彦・厚生連高岡病院長）、「新潟市西区S病院での病院支援活動（+α）」（林　達彦・村上総合病院 下越ブロック統括院長）の講演と、シンポジストによる「令和６年能登半島地震におけるDMAT活動報告～活動から得られた知見・考察～」（田中啓司・佐久総合病院佐久医療センター救命救急センター長救急科部長）、「令和６年能登半島地震 海南病院DMAT活動報告」（谷内　仁・海南病院第４診療部長兼救命救急センター長兼救急科代表部長）、「令和６年能登半島地震 DMAT 隊活動を通して得られた知見」（森　茂・中濃厚生病院副院長兼救命救急センター外科部長）の報告が行なわれた。

シンポジウム・講演の様子

シンポジスト

2　講演では、厚生事業の概要や厚生事業に係る規制について説明され、特に、厚生農業協同組合連合会の行う医療保健業に対する法人税の非課税措置の取扱いについて、非課税の承認にかかる手続きの詳細や、その項目の範囲はどのようなものなのかについて詳細に説明された。

３　シンポジウムで柴田氏は、自院での被害状況・対応等経験を踏まえた講演を行い、今回得た教訓として「水」はやはり大切であり、厚生連高岡病院では井戸水を主で使用しているが、井戸水と水道水両者の確保が重要であると話された。林氏は、新潟市西区Ｓ病院での支援活動について報告し、被災病院は必ずしも災害の備え、現状把握、今後を展望する想像力が十分ではないことが多く、意思決定が行えない可能性が高いこと、また、断水に伴う水洗トイレ使用不能の問題は重要であり、トイレトレーラーの普及の必要性を示唆した。

１月２日、第１陣で能登の現地に向かったDMAT隊員の田中氏、第２陣で向かった谷内氏、森氏からは、自院で行った活動報告と活動から得られた知見・考察について話題提供をしていただいた。田中氏からは、被災時でも医療継続ができる対策をすることが重要であり、平時からの災害対策本部運用訓練が大切であると話された。また、谷内氏からは海南病院としての南海トラフ沖地震の災害規模の大きさとその備えについて報告があり、被害予想が衝撃的であった。森氏からはアクセス困難な場所が被災地であると救援物資がすぐに届かない可能性があり、籠城することになること、また、最低でも３日間は備蓄が必要であることと日頃の訓練と継続的な体制維持が重要であると話された。

４　前田氏の講演に対し参加者からは、「法的根拠など立ち位置がよくわかりました」、「初めて聞く内容ばかりで、私には難しかったです。歴史と背景、法律上の位置づけなど、とても興味のある内容でした。ゆっくり、かみ砕いてもう一度お話を伺いたいです。資料にそって確認しなおしたく思います」、「公的医療機関として詳細な制約が理解されためになった」等の感想が寄せられた。

また、シンポジウムについては「水の確保、対応のアップデートが必要と認識できた」、「水とトイレが重要と感じた」、「DMAT隊を派遣する準備の参考になった」、「籠城に備えての備蓄、トイレの必要性を認識しました」等の感想が寄せられた。

第45回農協人文化賞表彰式が開催
鹿児島厚生連病院・窪薗氏が厚生事業部門で受賞

８月６日、一般社団法人農協協会が主催する第45回農協人文化賞の表彰式がＬＥＶＥＬ21東京會舘にて行われ、８部門から16名が受賞されました。

この賞は、昭和52年に農業協同組合法公布30周年を記念して創設されております。多年にわたり献身的に農協運動の発展に寄与した功績者を表彰することにより、農業、農村の振興と農協運動の発展に貢献された功労者を称えるものです。本年度は、厚生事業部門において、鹿児島厚生連病院名誉院長の窪薗修氏が受賞されました。

窪薗氏は、昭和59年に鹿児島厚生連病院の前身である天保山記念病院の院長に就任されました。昭和60年に同病院の経営権が鹿児島県厚生連に移管されました。平成８年に鹿児島厚生連病院と名称を改められた際に、鹿児島厚生連病院の初代院長に就任されたことで、同病院を肝臓がんや肺がんの治療において、県内有数の急性期医療機関に成長することとなりました。

一方、鹿児島厚生連には、同病院から約200m離れた場所に予防医療をすすめる健康管理センターがあり、施設長が運営を行う体制となっていましたが、平成13年に窪薗氏が鹿児島厚生連病院院長と健康管理センター所長を兼任することになり、以降、センターへの医師派遣をはじめ、両施設の看護師、管理栄養士、診療放射線技師および臨床検査技師等の医療スタッフの統合・一体化をはかり、業務効率化、迅速化をすすめ、事業実施体制の強化に取り組みました。

これにより、本院の基本理念である「予防から治療に至る一貫体制」の構築に尽力され、ＪＡグループ厚生事業の拠点施設、さらに地域の中核医療機関のリーダーとしてＪＡ組合員や地域住民の健康増進に貢献し、地域医療の充実・向上に大きな役割を果たしました。

平成20年に院長職を退任してからも、名誉院長・常任顧問としてこれまでと同様に、外来診療に従事する傍ら、県内各地の巡回特定健診での立会医師や離島医療機関での診療を行うなど、現在も地域医療の現場の最前線で活躍しておられます。

また、平成19年からの９年間は、鹿児島市教育委員会委員長を務められ、学校教育、

家庭教育および社会教育など教育機能の充実・連携をはかるとともに、市民の文化活動やスポーツ活動の機会の充実と質的向上にも取り組まれました。

窪薗氏の長年にわたる農業・農協運動および地域医療の発展への貢献は、氏の人間性、リーダーシップや行動力によるものであり、その功績が高く評価され今回の受賞に至りました。

窪薗氏表彰の様子

歸山好尚理事長来賓あいさつの様子

□通信員だより□

秋田県農村医学会第126回学術大会
学術研究を通して地域医療・保健・福祉を考える
～一般財団法人秋田県農村医学会～

（ＪＡ秋田厚生連）

７月６日、秋田県ＪＡビルにおいて、秋田県農村医学会第126回学術大会（学術大会会長　吉田雄樹　かづの厚生病院院長）を開催しました。

学術大会には、秋田県厚生連の職員、県内医療関係者、一般会員等、約400名が参加し、医療・保健・福祉の質の向上を目的に、幅広い分野から研究発表が行われ、メイン会場の大ホールでは、研究班報告や特別講演、学会賞講演を行うとともに、43題の会員講演（一般演題）はメイン会場を含む４会場に分かれて実施されました。

共同研究班報告では、秋田厚生医療センターの戸嶋雅道診療部長から『秋田県のがん患者に対する強度変調放射線治療の提供機会創出に関する多施設共同研究』をテーマに講演していただきました。人的資源、物的資源、経済的資源、情報的資源などさまざまな角度からの調査および研究の報告をいただきました。

学会賞講演は２題行われ、湖東厚生病院の石井元診療部長から『90 歳以上の超高齢者 ERCP に関する検討』について、由利組合総合病院臨床検査科の加藤純副技師長から『当院発熱外来におけるＳＡＲＳ－ＣｏＶ－２/Ｆｌｕ抗原定性検査の有用性に関する検討』について講演が行われました。

学術大会会長

特別講演では、岩手医科大学の西川泰正講師から『詳説！脳深部刺激療法』をテーマに講演していただきました。会場はほぼ満席と盛況の中、脳深部刺激療法について、対象となる疾患や治療による効果を実際の患者さんの映像を交えながら分かりやすくご紹介いただき、「治療開始の遅れはその人の大切な時間と可能性を奪うことに他ならない！」と熱くご講演いただきました。また、質疑応答の際も活発に意見交換が行われ、会場の多くの方々が真剣に聞き入る姿勢に関心の高さを感じました。

最後に、学術大会にご参加いただいた全ての皆様に深く感謝を申し上げます。

特別講演の様子

（淡路明美通信員）

未来の看護師誕生に 一日看護体験開催

（ＪＡ茨城県厚生連）

ＪＡ茨城県厚生連が運営する茨城西南医療センター病院（上杉雅文病院長）では、７月30日、８月７日に県内の高校生を対象とした一日看護体験を開催しました。

この活動は、茨城県看護協会と連携した取り組みであり、体験を通じて「看護の心」にふれ、看護師をはじめ病院で働くスタッフに関心を持ってもらうことが目的です。

体験では、オリエンテーションで看護師の果たす役割などを説明し、病院内部の見学、車いすやストレッチャーの使い方、赤ちゃん（人形）の沐浴、血圧測定、ベッドでの介助方法などを学びました。

参加した高校生からは、「普段は医療を受ける立場だが、今回は医療を提供する側を見ることができてとても新鮮であった」、「患者さんのために働く医療従事者の素晴らしさを学ぶことができた。私は看護師になりたい」などの声が聞かれました。

赤ちゃん（人形）の沐浴を体験する高校生

赤ちゃん（人形）の着衣を体験する高校生たち

レントゲン機器の説明を受ける高校生たち

オリエンテーションを受ける高校生たち

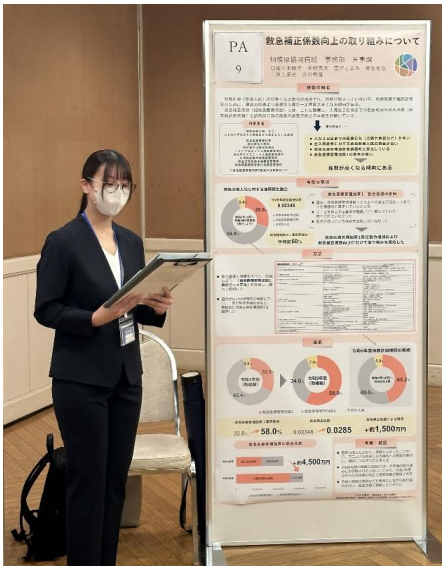
（酒井一彦通信員）

第82回関東農村医学会学術総会

（ＪＡ神奈川県厚生連・相模原協同病院）

７月 13 日に、第 82 回関東農村医学会学術総会が開催されました。今回のテーマは、地域のニーズを見据えて、明日の医療連携を考える「地域包括医療新時代」ということで、一般演題・特別講演・シンポジウム・ランチョンセミナーが行われました。

一般演題では、各部門から全部で 86 演題エントリーし、そのうち相模原協同病院（渋谷明隆病院長）から、放射線室の唐澤勇雅さん、研修医の土橋卓実さん、医事課の佐々木陽子さん、薬局の圓東愛さんの４名が優秀演題賞を受賞しました。日々の活動の成果を発表できる場ですので、積極的に参加していきましょう。



発表の様子

（増田佳一通信員）

院内防災訓練を実施しました

（ＪＡ神奈川県厚生連・伊勢原協同病院）

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、７月 31 日に伊勢原消防署の職員立ち合いのもと院内防災訓練を実施しました。昼間に病棟で火災が発生したと想定し、初期消火の対応や患者役職員の避難誘導、現場での指揮を行い、火災時の避難経路や連絡系統等を確認する訓練となりました。

今回の訓練では下層階への垂直避難にソフト担架が使用され、使い方や搬送方法を確認しました。ソフト担架とは持ち上げず引きずるかたちで搬送できる担架の一種で、衝撃が少なく少人数で搬送できる利点があります。搬送時に同行した消防職員から、階段で下る際に上部にいる職員はストレッチャーの持ち手を首にかけても良いとアドバイスを受け、より安定した足取りで垂直避難の訓練が行えました。

また、屋外で消火器訓練を行い、使用法や消火時の姿勢を確認しました。訓練後の消防職員による講評では、初期消火にあたった職員が声に出して 15 秒の初期消火を実施していた点やソフト担架の展開など迅速な搬送が評価されました。応援役の人員の移動などに課題が残る為、今後も訓練を実施し有事に備えてまいります。

ソフト担架による担送

消火器訓練の様子

（増田佳一通信員）

2024年度 介護福祉士第１回テクノエイド研修会を開催しました

（ＪＡ長野厚生連）

ＪＡ長野厚生連は、７月30日～31日の２日間に渡って、外部講師に日本ノーリフト協会代表理事の保田淳子先生をお招きし、2024年度介護福祉士第１回テクノエイド研修会を開催しました。

当会で行うテクノエイド研修会は、今年度３年目を迎え、職員のレベルにより中級・上級に分かれての研修となり、患者さんや利用者さんの自立支援、介護者の負担軽減につなげるための福祉用具の安全かつ効果的な活用技術の習得、また、個々の状況に合わせたアセスメントができるよう事例検討を通じ、指導者としての情報共有と活用、新たな福祉用具の導入検討につなげることを目的とした研修です。参加者は、研修で学んだ知識・スキルを活かし、それぞれの職場での課題を抽出し、１年を通して改革に取り組みます。

介護ベッドやリフトなどを用いての実践を交えた研修会となり、参加した介護福祉士は新たな発見、課題が見いだせたのではないかと思います。

この研修を通じて、介護職の質の向上、さらなる視野の拡大と次世代リーダーへの成長を期待しています。

研修会の様子

（山岸愛通信員）

夏の院内コンサートを開催しました

（ＪＡ岐阜厚生連・中濃厚生病院）

中濃厚生病院（勝村直樹病院長）は、８月６日に、中濃地域で活躍されている箏花会（ことはなかい）・関おはやし会による、箏の演奏会を１階ホールで開催しました。

今回の箏の演奏会は、猛暑が続く昨今、夏祭りに行けない患者さんやそのご家族に少しでも「夏の風情」を感じて頂きたい思いから、企画しました。

夏をテーマにした様々なジャンルの演奏と歌、後半には郡上踊りの「春駒」等を演奏してくださいました。郡上踊りは日本三大盆踊りのひとつで、地元でも大変馴染みのある夏の風物詩です。

明るく力強いおはやしと演奏に合わせて、浴衣姿の踊りの輪が出き、約100名の患者さんや病院スタッフが手拍子をして、夏祭りらしい盛り上がりとなりました。こうしたイベントを今後も定期的に企画し、地域に開かれた病院を目指してまいります。

院内コンサートの様子

（寺師史華通信員）

サマーコンサート６年ぶりに開催！

（ＪＡ静岡厚生連・ＪＡ静岡厚生連遠州病院）

ＪＡ静岡厚生連遠州病院（大石強病院長）は７月 20 日、サマーコンサートを開催し、回復期病棟の患者様他、約 30 名にお越しいただきました。新型コロナウイルス感染症の流行により中止を余儀なくされ、約６年ぶりの開催となりました。

当院リハビリスタッフによる体操を行ったあと、浜松医科大学管弦楽団総勢 43 名の皆さんに演奏していただきました。集まった方々は久しぶりの生演奏を楽しんでいました。

サマーコンサートの様子

（望月俊宏通信員）

浜松厚生看護専門学校　竣工式

（ＪＡ静岡厚生連・ＪＡ静岡厚生連浜松厚生看護専門学校）

1970 年（昭和 45 年）に開校した静岡県厚生連看護専門学校（藤田美保子学校長）は、９月１日、「ＪＡ静岡厚生連　浜松厚生看護専門学校」と名称を変更し、浜松市中央区野口町に移転します。

移転に伴い、８月 20 日に新校舎で竣工式を行いました。ＪＡ役員をはじめ、県議会議員、静岡県健康福祉部や浜松市長、看護協会等、多くの方々にご臨席いただき神事が執り行われ、その後テープカットを行いました。

新校舎は、学生同士や教員との交流を活発に行える様に各階にラーニングスペースを設けています。

今後も人の痛みがわかる豊かな人間力を培い、社会に貢献できる専門職としての看護師を養成していきます。

テープカットの様子

新校舎

（望月俊宏通信員）

活発な学会活動再開の端緒を期待
「第40回四国農村医学会総会開催」

（ＪＡ愛媛厚生連）

ＪＡ愛媛厚生連は７月28日、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う学会中止をはさみ、３大会８年ぶりとなる対面形式での第40回四国農村医学会総会を愛媛県医師会館で開催した。

四国４県において、農村医学に関心をよせる人々を中心に組織する医学会で、会員や関係各位117人が参加し、学術発表や情報交換を行った。

「第40回四国農村医学会総会」の様子

開会挨拶を行う西本経営管理委員会会長

開会挨拶を行う田中学会長

今回の学術総会学会長を務めた同厚生連の田中理事センター長は「がんの早期発見は重要な課題となるなか、精度の高い検査やデータを提供し、健康サポートに尽力する事が大切と考える。今回の学術総会は　“がんに関して知る”事をテーマに、がんに思いを巡らせ、がんに関して改めて学べる機会を提供したい。また、第 40 回の節目にあたる本大会の開催にあたりご協力いただいた皆様に感謝申し上げるとともに、参加施設間の交流のきっかけとなることを願う。」と挨拶した。

学術総会では、独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター　山下素弘院長より「がん予防と健診・最新のがん治療」と題した特別講演のほか、松山赤十字病院　蔵原晃一副院長より「胃がん検診と大腸がん検診」と題したランチョンセミナーを開催した。この後ひきつづき、一般演題 24 題の発表が行われ本大会は盛会裏に終えた。

（八竹典子通信員）